

昭和48年度論文賞の決定

昭和48年度情報処理学会論文賞は、同賞選定委員会（穂坂委員長ほか14名）において慎重審議の結果、以下の3編が最終候補として推せんされ、第165回理事会（49年4月）の承認を得て決定されました。

なお、以下の3編に対する、本会表彰規程による賞状と賞金との授与は、去る5月16日に開催の第12回情報処理学会通常総会の席上で、尾見会長の手によりとり行なわれました（巻末本会記事参照）。

記

○「オペレーティング・システムの記述に関する一考察」

[Vol. 14, No. 2, pp. 98~105 (Feb. 1973)]



野口健一郎（正会員）

昭和17年生。昭和40年東京大学工学部電子工学科卒業、45年同大学院博士課程修了。昭和45年より（株）日立製作所にて、計算機システムの性能評価、オペレーティング・システムの開発に従事、現在同社ソフトウェア工場に勤務している。工学博士。



元岡 達（正会員）

昭和4年生。昭和32年東京大学大学院（電気工学専攻）修了。現在同学工学部教授。記憶装置、磁心論理回路、数値制御、計算機論理設計の自動化、計算機・OSなどのシステム記述、計算機の方式設計、計算機の相互結合などの研究に従事している。工学博士。

〔概要〕 本論文は、オペレーティング・システムの制御プログラムの論理仕様レベルの記述を行なうことを目的としたひとつの記述方式を提案している。このためにオペレーティング・システムの基本となる構造について整理を行ない、この構造に即してシステムの要素を記述する方式を与えた。また、この記述方式の実システムへの適用例を示している。

本論文で述べた記述方式は、オペレーティング・システム的设计に関し、論理の記述レベルを詳細化するという記述変換として設計を定式化すること、および論理的な誤りのない設計についてひとつの見通しを与えるものである。

○「表現能力に富む小さな文法について」

[Vol. 14, No. 4, pp. 260~266 (Apr. 1973)]



渡辺 坦（正会員）

昭和14年生。昭和37年京都大学理学部数学科卒業。日本アイ・ビー・エム（株）を経て、昭和42年より（株）日立製作所にて、プログラムの機種変換の自動化、モジュラー・プログラミング・システム、トップ・ダウン型プログラミング言語の研究開発等に従事、現在同社中央研究所に勤務している。

〔概要〕 本論文は、構文の基本パターンを固定し、記号や単語の選びかたにあまり制限を課さない言語を提案している。1ページに図示できる単純な構文パターンを定め、その範囲内で、

FORTRAN や ALGOL, PL/I に似た表現やそれらよりもさらに自然言語に近い表現が構成できることを示している。さらに、これらの多様な表現形式に対する共通の構文解析ルーチンが、FORTRAN の約 300 ステートメントで実現されている。

本論文は、各種の問題向き言語の開発にあたって、従来は数十%を占めていた構文解析部分に、ほとんど労力をかけなくてすむ具体的手法を与えるものである。

○「システム設計言語 DEAPLAN について」

[Vol. 14, No. 9, pp. 652~660 (Sep. 1973)]



林 達也 (正会員)

昭和 12 年生。昭和 35 年早稲田大学理工学部応用物理学卒業。同年より富士通(株)にて、システム設計言語、システム・プログラミング言語、コンパイラ・コンパイラなどを主体としたソフトウェア工学の研究に従事、現在同社ソフトウェア計画部に勤務している。

〔概要〕 本論文は、OS の structured top-down design を可能にする設計言語が必要とされる機能について考察し、この機能を備えたものとして DEAPLAN 言語を提案している。これまでの OS 記述は、おもに性能評価の立場からとり上げられているが、これ以前に、誤りのない OS の作成を援助することも非常に重要である。

本論文はこのような観点に立って、任意の OS の論理構造を直接的にとらえて記述するためにシステム設計言語を設定し、具体的な成果を得ている。また、従来のプログラミング言語の分野に対しても、OS を含めたより広い立場からそれを眺め直すことにより、GPL や ALGOL 68 などとは異なった側面から有効な示唆を与えている。

昭和 49 年 6~7 月情報処理学会研究会開催通知

研究会名	日	時	会場	備考
システム性能評価	6月28日(金)	14:00~17:00	機械振興会館	前号参照
計算機アーキテクチャ	7月2日(火)	14:00~17:00	同上	下記参照
データ・ベース	7月11日(木)	14:00~17:00	電機工業会館	同上

○第 1 回 計算機アーキテクチャ研究会 (主査: 相磯秀夫, 幹事: 所真理雄)

日 時 7月2日(火) 午後2時~5時

会 場 機械振興会館 6階 67号室

〔港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅・都営線大門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一浜谷線東京タワー・等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. (03) 434-8211〕

議 題 (1) 研究会発足にあたって

相磯 秀夫 (慶大)